

子どもたちの日常は変わった?

のうち学校に顔を出すようになる子もいましたが、最近少し事情が違っているようです。

ネット上のゲームの中には「仲間」がいて、時には会話しながら交流して、「友だち」もいると話す

子もいます。

短い夏休みも終わったある日、中学生三年生の生徒が相談に訪れました。

「もう、スマホを触らせてもらえないなくなりそうだ。学校が休校中に、暇だったから、お母さんのスマホを借りて動画をずっと見ていた。学校が始まったけど、どうしても見たくて長いこと使っていたら、勉強しないのならもう使わせない」と怒られてしまつた。

勉強を後回しにしていたのは悪かつたと思いつつも、母親の忠告を素直に聞けない、思春期の複雑な反発心もあって、誰かに話を聞いて欲しかつたようでした。

学年が上がるにつれ、このままで

は生活がだめになるという自覚が育まれ、主体的に何とかしようと動く

時間帯を決めて使つていると、ほつとした表情で話してくれました。



小学6年生「赤ちゃんの沐浴」

一方で、家族からは食事が不規則になり、睡眠時間も削りゲーム中心の生活になつて困つている、会が増えている今、決して短くは

という深刻な話が寄せられます。

依存症を危惧して、「Wi-Fiを切つてしまつた」、「機器を隠してた」等と聞くこともありますが、力ずくの方法をとることで、親子関係がこじれ、当の子どもは深く落ち込んでしまうことがあります。

小学校高学年ぐらいからの、学校に行き辛くなつた子どもたちの話を聴いている時、ゲームやインターネット(以下「ネット」)の世界に、自分の存在価値や居場所を見出している子に出会うことは珍しくありません。数年前ならば、手持ちのゲームや漫画に飽き、そ

なぜなら、現実生活に人間関係のつまずきや何らかにストレスを抱えていて、ゲームや動画視聴がその子の「心の支え」になつていています。

子どもたちがオンラインで学習

したり動画を見たりゲームをしたり、日常的にネットに触れる機会が増えている今、決して短くは無い時間を費やして、子どもが何を見て何をしているか、私たち大人から一步歩み寄り、関心を持つて知るようにしていきたいと、話を聴きながら感じています。

(T.S 公認心理師)

〈第58号〉

はぐくみ

発行
青少年健全育成鯖江市民会議
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

58号

はぐくみ
家庭教育を考えるシリーズ

子育てが変わる!? ~ネットと上手にお付き合い~



『さつまいもほり』かわだ保育所



『キャンプごっこ「お肉、焼けたかな?」』せきいんこども園



『選手宣誓』吉川小学校



『全集中でNIE実施中』東陽中学校

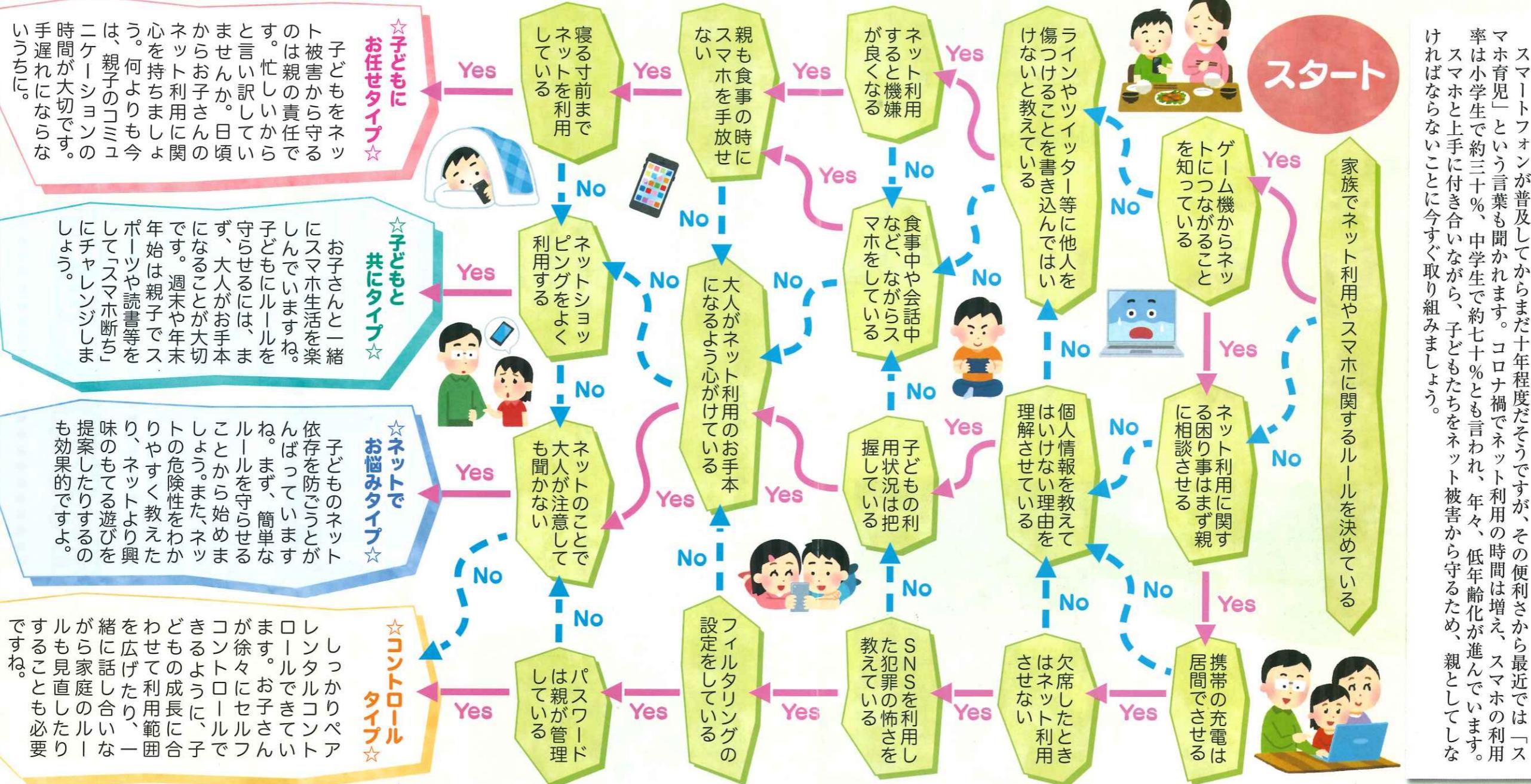
キミは
1人じゃない
ヤングテレフォンにお電話ください
南越支所 023-6699
鯖丹支所 052-6114
月～金 8:30～17:15
土・日・祝日、夜間は留守番電話にて対応します

愛護センターでは、未成年の皆さんに係る相談を受け付けています。困った時、相談したいと思い立ったその時に、気軽に相談してください。

丹南青少年愛護センター

「はぐくみ」は、家庭のあり方についてみなさんと一緒に考えていきたいと発刊しております。子育てのヒントになればと思います。ご意見をお聞かせください。

鯖江市教育委員会生涯学習・スポーツ課
〒916-8666
鯖江市西山町13-1
TEL 53-2256



ネット利用診断

あなたの家庭はどのタイプ?

スマートフォンが普及してからまだ十年程度ですが、その便利さから最近では「スマホ育児」という言葉も聞かれます。コロナ禍でネット利用の時間は増え、スマホの利用率は小学生で約三十%、中学生で約七十%とも言われ、年々、低年齢化が進んでいます。スマホと上手に付き合いながら、子どもたちをネット被害から守るため、親としてしなければならないことに今すぐ取り組みましょう。

チャレンジとコントロール

涓滴

「子どもとスマホの使い方を話したいが、話したがらない。「ゲームを取り上げるしか方法がない。」約束しても、やめないので困っている。今、多くの家庭で、ネットの使い方が大きな問題になっています。

では、子どもの反発は覚悟して、スマホを取り上げればそれですむかといえば、そう簡単ではない。今、県内の高校ではオンライン授業が進んでいる。ある高校では、千人の高校生全員がパソコンかスマホを使ってオンライン授業の充実で対応しようとしている。ネット提出やオンライン面接に対する時代になつていています。

では、家庭ではどのように対応していくべきか。具体的な提案をしてみたい。まず、子どもと「我が家のスマホルール」を作る提案である。ネット提出やオンライン面接に対する時代になつていています。スマホを取り扱い、担任や相談機関と相談しながら対応してはどうだろうか。第二の提案は、「親や祖父母自身がいろいろなアプリに挑戦してみることである。頭ごなしに注意すればするほど、子どもは隠れてスマホをするようになる。親などがいろいろなアプリを勉強し、できることを子どもと共有してみる。こんなにスマホは便利なのか」と話していく。

それでは、家庭ではどのように対応していくべきか。具体的な提案をしてみたい。まず、子どもと「我が家のスマホルール」を作る提案である。ネット提出やオンライン面接に対する時代になつていています。スマホを取り扱い、担任や相談機関と相談しながら対応してはどうだろうか。第二の提案は、「親や祖父母自身がいろいろなアプリに挑戦してみることである。頭ごなしに注意すればするほど、子どもは隠れてスマホをするようになる。親などがいろいろなアプリを勉強し、できることを子どもと共有してみる。こんなにスマホは便利なのか」と話していく。

しかし、子どもが話したがらない場合もあるだろう。スマホを注意すると暴言を吐くというところまで、状態が悪化しているケースもあると聞く。それは、子どもの精神の不安がたまたまスマホに表われているだけなのである。その場合は、「ぜひ、子どもの不安に取り添い、担任や相談機関と相談しながら対応してはどうだろうか。」
「スマホの不安に取り組むことを子どもと一緒に挑戦し、子どもと一緒に成長させていく。親も一緒に成長していく。」
「スマホへの新しい対応の仕方の提案である。

*涓滴(けんてき)とは「しづく」という意味。しづくも集まれば、やがて大河となることの願いを込めて。